

学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・コミュニケーション能力、思考力、判断力、表現力を養う
- ・発表の仕方などの授業規律の定着を図る

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	・学習規律の徹底を図り、既習事項の確認や反復学習に努めさせる。 ・体験しながら学ぶことを重視し、既習事項の確認をしながら新しい基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る授業の展開をさらに進める。
思考力・判断力・表現力の育成	・既習事項や既有経験をもとに「自分の考えをもつ（思考力）」「意見の交流をする（表現力）」「考えを深める（思考力）」の学習の流れを各教科で実践する。 ・全教科を通して言語活動の充実を図り、聞く、話す力を向上させ、コミュニケーション能力を身に付けさせる。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	・毎時間のねらいを明確にし、考える時間や操作活動などを取り入れて授業を組み立て、学ぶことの楽しさを体験させる。 ・一人一人の子どもが、互いに学び合う授業をより多く設定する。 ・算数科の少人数指導を行い、学習への意欲を引き出す支援を行う。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題

○結果分析から明らかになった成果

▲結果分析から明らかになった課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○教科全体、基礎、応用ともに区の目標値を上回ることができている。 ▲「学習力サポートテスト」の結果から聞き取りや、発表のテーマと発表の仕方の工夫について苦手な児童がいる。	○文書から必要な情報を読み取ることができている。 ▲文章構成を意識して自分の考えを分かりやすく文章に書き表すことに課題がある児童がいる。	○概ね場面の描写や登場人物の心情を読み取ることができている。 ▲指定されたテーマについて自分の考えを構成し、書くことに課題が見られる。
算数	○「学習力サポートテスト」の結果では、「量と測定」領域において区の目標値を上回った。 ▲数量関係や図形の技能について十分な習得ができていない。	○課題解決に対する意欲が高く、既習事項を活用して解決を図ることができている。 ▲自分の考えを式や図、言葉などで表現することが苦手な児童が多い。	○関心・意欲が高く、公式などを理解して問題を解くことができている。 ▲小数・分数の乗法や除法の計算など、基本的な計算に課題が見られる。

社 会	○消防署などに実際に見学に行くことで問題に対する関心が高まり、意欲的に学習に取り組むことができている。 ▲グラフや資料を読み取ることが苦手な児童が多く「学習力サポートテスト」では、区の平均から8ポイントほど低い。	○多くの児童が図やグラフを読み取り、正しく情報を読み取っている。 ▲分かったことを関連付けて課題を解くことが苦手である。	○情報を適切に判断したり考えたことを表現したりでき、学習内容が概ね定着している。 ▲赤道や我が国の領土の位置についての理解に課題がある。
理 科	○問題を解決するために繰り返し実験に取り組むことができている。 ▲苦手意識をもつ児童が多く、学習内容の理解を深められていない。	○実験を通して理解を深めることができている。 ▲主体的に結果を判断し、まとめることが苦手な児童がいる。	○電流のはたらきに関心をもって意欲的に学習に取り組んでいる様子が見られる。 ▲課題に合わせて実験方法を考えることが苦手な児童が多く、学習内容の定着を図る必要がある。
調査以外の教科についての成果（○）と課題（▲）	<音楽> ○多くの児童が、基礎的な技能の習得ができている。歌唱か器楽のどちらかの技能表現を高められることができるようになった。 ▲音楽の要素の働きに気付きながら、そのかわり合いを感じて聴けない児童がいる。 <図画工作> ○表現することに意欲的に取り組み、のびのびと活動することができる。 ▲集中力を持続することや、全体の一員として活動することに課題のある児童が見受けられる。 <家庭> ○意欲的に学習に取り組んでいる。 ▲裁縫において技能面での個人差が見られる。 <体育> ○運動に親しみ、楽しく活動している。 ▲運動経験の差が運動技能の差につながっている。 ▲課題をもち、その解決方法を考えることに課題が見られる。		
調査以外の学年について 1学期の学習における成果（○）と課題（▲）	第1学年	○物語や説明文を読み取り、動作化したり吹き出しを書いたりして意欲的に表現活動をしている。 ○10までの数の読み方、かき方、計算の仕方は概ね定着している。 ▲文章の読み取りが正しくできない児童、音読や発表の声が小さい児童が数名いる。 ▲具体物を使った計算はできるが、式だけでの処理に課題がある児童が数名いる。	
	第2学年	○読んだり、発表したりする活動を楽しむ児童が多い。 ○筆算、単位の理解は、概ね定着している。 ▲漢字の習得が苦手な児童に対して、繰り返し練習をする工夫が必要である。	

		▲自分が立式した理由を説明できない児童が多い。自信をもって臨めないときがある。
	第3学年	○物語や説明的文章を読み、記述されていることを基に内容を読み取ることができている。 ○アレイ図や線分図を使って問題を捉え、説明しようとしている。 ▲書くことに苦手意識があり、伝えたいことを整理して書くことができない。 ▲時間と時刻、長さの計算や単位換算の理解ができていない児童が多い。

昨年度の授業改善プランに基づく結果（○）と主な課題（▲）	
○ペア学習などの学習形態や質問タイムなどの授業方法の工夫を取り入れたことにより、児童が自分の考えを相手に伝えるという意識を育てることができた。 ○コミュニケーションタイムを設定したことで課題に合わせて自分の気持ちを分かりやすく伝える方法を練習することができた。 ▲学習事項が確実に定着するよう行った指導の効果が十分に表れていない児童が見られる。 ▲既習事項が定着している児童でも新しい課題解決のための場面において、既習事項や生活経験を活用した学習において課題が見られる。 ▲自分の考えを分かりやすく伝えるために話す内容や書く内容の整理、構成に時間がかかり苦手意識のある児童がいる。	

改善の方針	国語及び算数を中心に授業改善を行う。 ・児童が学ぶ楽しさや分かる喜びを感じ、学習する意欲をもてるようにする。 ・国語においては自分の考えを筋道立てて相手に伝えることができるように思考力や言語表現力を高める指導法の工夫に取り組む。 ・算数においては児童が興味をもつ問題を考え、意欲的に課題解決ができ、基礎・基本の定着と習熟に取り組む。
【本校の授業改善に向けた具体的な方策】	
改善のための指導計画	○各教科の年間指導計画を見直し、児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、それらを基に児童が意欲的に課題解決に取り組むことができる授業実践をする。 ○全教科・領域の授業時数を計画に沿って適正に実施されているかを点検・確認する。 ○年間指導計画と児童の学習状況を考慮して週ごとに学習指導計画を立て、管理職に提出し、指導・助言を受ける。
改善する指導内容 (教科、領域、観点等)	改善のための指導方法、指導体制
国語「話すこと・聞くこと」	○ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、話し合い活動の中で考えを一つにまとめる経験を積み重ねるようにする。 ○学年の発達段階に応じて、スピーチや友達の発言後、友達の考えに対して自分の意見をもつ時間などを設定し、話し合いができるようにする。 △全校朝会での校長講話を聞き取り、記録させることで「聞くこと」の意識を高める。 △日常的な言葉集めの活動を通して、語彙を増やす。

国語「書くこと」	○児童が感じたこと、考えたことを書き表したくなるような題材の工夫をする。 ○児童の作文や著名な作品を紹介し、優れている文章表現を探し、文章で表すことへの意欲を高める工夫を行う。 ○段落を分けて付箋紙に書かせ、それを移動させる活動を通して相手に分かりやすく伝わる文章の構成を理解させる。 ○日記を書く活動を継続し、学年の発達段階に応じて内容や文章構成、正しい表記などを指導する。
算数「数学的な考え方」	○児童の実態に合わせた既習事項の振り返りや、その授業で学んだことを確認する時間を取り、知識・理解の習熟を図る。 ○児童の実態に合った興味のある問題設定をし、提示の方法を工夫して、児童が意欲をもって取り組むことができるようにする。 ○問題解決学習の時間を十分に確保し、既習事項を生かし児童が思考し、考えを深めることができるようにする。 ○考えたことを言葉、図、式などで分かりやすく表現できるようにする。 ○自分の考えを分かりやすく伝える力が身に付くように、ペアや小集団での伝え合う時間を設定する。 △3～6学年では、全単元を習熟度別指導で行う。児童の習熟度をレディネステストなどで確認し、グループを編成する。また、担任・算数少人数担当教員との連携を密にした指導により、一層の学力の向上を図る。また、第2学年の算数講師を配置したT T指導では、T 1、T 2の打ち合わせの時間を必ず確保して、個別に配慮を要する児童への的確な指導・対応を行う。
評価活動の工夫	○ドリル、ワークテスト等の結果により評価する。 ○ノートの記事、作品や提出物により評価する。 ○児童の発言や発表内容により評価する。 ○児童同士で互いに評価したり自己評価したりする。
家庭や地域との連携の工夫	○家庭での学習習慣を形成するために、繰り返し練習する学習や音読、授業に準拠した課題等を継続的に提供する。 ○家庭には、保護者会、学年・学級通信等で家庭学習の内容や意図、提出方法について周知し、学校と家庭間の連携体制を整える。
検証方法	○管理職による授業観察および指導・助言 ○児童の変容の見取り（授業の様子、ノート、ワークシート、小テスト、単元・学期ごとのまとめテスト、国・都・区の学力調査など） ○学校評価（教職員による自己評価、相互評価、全体評価） ○外部評価（保護者、学校評議員、外部評価委員） ○児童の自己評価

【学力向上を支えるその他の取組】

- 校内研究の推進、オリンピック・パラリンピック教育を推進する取組（心と体の健康づくり）
- 教員相互による授業公開（校内のO J T研修の確実な実施）
- 月一若手教員研修会の実施
- 特別支援教育の推進と実践（通級指導学級の充実）

＜特色ある教育活動＞

- 学習意欲を高め、集中して授業に取り組める児童を育てる学級経営
（月一スタンダードを設定し、学校で統一した学習規律の指導を行う）
- 評価の公表（評価結果の共有化、学校ホームページに掲載等）
- 読書習慣の形成（年に3回の読書週間、保護者による読み聞かせ、親子読書の実施）
- 月一サマースクール（夏季休業中に担任、専科教員による個別指導などの実施）